

# 鳥飼情報

## 発覚！！ 管理者がこそつとボルトを緩める！！

**安全・安定輸送を会社自らが覆す！！**

**会社はどう責任をとるのか！！**

ゴールデンウィーク中の4月29日、大阪第二車両所で交番検査の予備検査時に管理者が正常状態にあるライニング取付けボルトを緩め緊縛を切り、フサギ板のボルトも緩めるという極めて悪質な交番検査を妨害するという行為をしていたことが明らかになった。佐々木助役は、自らボルトを緩めたことを認めた。会社は、「社員の技術向上」のためとしているが、そもそも交番検査の電車は安全な電車として営業に使うものであって、今回の事態のように検査担当を「試す」ために使う電車ではない。

交番検査の作業では「作業分担」や「チョークチェック等」が厳しく決められており、管理者だから「標準作業」から逸脱しても良いとはならない。また、ライニング取付けボルトを緩めた際に針金の緊縛を切ったため、加圧中でライニングが動くおそれがあるのに助役が検修担当に緊縛を行うよう指示している。

この件について、内藤所長は以前から行っていたことを認めた上で「関係箇所連絡しているから何ら問題はない」と言っているが、安全をないがしろにする大きな問題である。

### 〔具体的な問題点〕

- ① 検査に入る電車の正常に取り付いているボルトを意図的に緩め異常にした。
- ② 検査担当者を試すために検査を行う部位に細工をした。
- ③ 加圧中の電車でいつ動くかわからないライニング取付けボルトを緩め、緊縛を切った。
- ④ いつ動くかわからないライニング取付けボルトの緊縛をするよう社員に指示をした。
- ⑤ 「チョークチェック」をせずにフサギ板の取付けボルトを緩めた。
- ⑥ フサギ板を仮止めの状態で放置した。
- ⑦ 正常な状態の電車を異常にし、担当者を落とし込めるために複数の管理者で謀議し実行した。

この様な「妨害」は、社員にいらぬプレッシャーをかけるもので安全上問題である！！

関西支社管内では、日頃「標準化作業の点検」だとか「主任レポートに関する教育」などで管理者がしたり顔で物を言っているが、もはや管理者の言う事は信用できない！

「サミット」を前に日頃から「セキュリティの強化」というが、今回の事態は会社自らが「こそつと電車のボルトを緩めるというテロ行為」を行ったという事である。内藤所長・大二両管理者はどう責任をとるのか。